

# みんなで語る会報告書

開催日時 平成25年7月16日(火) (19時00分～20時30分)  
開催場所 利永集落センター  
参加者数 市民…41人  
指宿市…市長他15人

総計57人

## 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 閉会

## 意見交換内容

### 【市民】

・地区外からの耕作者が非常に増え、道路に自動車を何台も停めて通行の妨げとなったり、他人の畑の駐車スペースに自動車を無断で停めたりと、地区内の農家とのトラブルも生じている。農業委員会が畑の耕作者を把握していただければ、こちら側の対応もきちんとできると思う。

<農政部長>

・地区外からの耕作者については、農業委員会が把握していると思う。届出をしているかについても農業委員会に相談しながら、十分でなければ調査等を行っていききたい。その結果は、改めてお知らせする。

<市長>

・市役所でも現地確認を行い、実態を把握したい。農地は肥えており、農業後継者、認定農業者も頑張っているの、地区と市が一緒になって、畑の耕作における様々な問題解決に取り組んでいかなければならないと思う。

### 【市民】

・昨年、利永尾下線でがけ崩れが発生し、半年以上、通行止めになった。今年の7月頃に、山川の区長さんの要望書を添えて、広域農道に通じるもう1本の道路である林迫線を大型が通れるように拡幅するよう要請した。今、行っている利永尾下線の工事が終わり次第、対応をお願いしたい。

・私の地区で、ウォーキングロードの整備をしようという話があった。しかし、健幸運動教室を行わなければ、健幸のまちづくり地域環境整備事業補助金の交付申請はできないということであった。今後、人口の少ない地区についても考慮していただければありがたい。

<市長>

・道路については、東部広域農道との接続や、雨天時等に通行止めにならないよう対策に努めている。

<建設部長>

・尾下地区と東部広域農道を結ぶ道路は、利永尾下線と林迫線の2本のみである。豪雨により大規模な法面崩壊が起こった利永尾下線の道路改良工事は、来年で終わる予定である。林迫線については議会の質問でもあり、旧山川町の時代から、用地買収の問題が解決せずに頓挫していると聞いた。

<市長>

・地権者の協力等、いくつか課題がある。

### 【市民】

・林迫線については、全ての土地所有者から承諾をもらい市に提出している。

<市長>

・それが解決していれば、事業として計画も可能である。

<建設部長>

・要望書も提出されているようであるので、利永尾下線が終わった段階で、旧山川町の職員ともどの辺りかを検討し、買収していきたいと思う。

<市長>

・用地の問題が完了しているということであれば、担当部署による現地確認を行い、要望に沿えるよう努めたい。

<総務部長>

・SWC（スマートウェルネスシティ）の具体的な事業は今年からスタートし、ウォーキングロードや運動場の整備補助、健幸マイレージ制度など、市民の健康づくりのため、様々な取り組みを行っている。現在、ウォーキングロードや運動場の整備補助は、健幸運動教室とセットになっており切り離すことはできない。皆さんからの意見を踏まえて、来年度の事業について検討することになると思う。

<市長>

・健幸運動教室は、室内で座ってできるような運動や、栄養指導等をインストラクターと行う。ぜひ、参加していただければと思う。先日、私が住んでいる大牟礼地区の健幸運動教室に参加した。平均年齢は、80歳位だったと思う。40人位でゲーム等を行い、約50分間楽しんだ。かねては足取りの重い方も、帰るときにはヒョイヒョイ歩いていた。ラジオ体操をしたり、ふれあいの場でもあるので、気軽な教室と考えていただければありがたい。

### 【市民】

・区長さんをはじめ集落長さんたちが、利永集落の空き家調査を行ったところ、空き家が約63軒ある。子どもも利永小学校に通わせたいという方も数人いるが住む所がなく、現在19名の児童で利永小学校では教育を行っている。空き家のうち3軒は既に借家として提供されており、10軒位はすぐにでも住めるような状態である。貸してもらえないか相談しても、中に家具がそのまま入っていたり、年忌で使ったりといったような事情もある。貸そうにも、汲み取り式のトイレを簡易水洗にするのも難しいが、住宅リフォーム助成事業では、トイレ改修等も助成の対象になるのか。

<産業振興部長>

・住宅リフォーム制度は、①補助対象者が所有し、居住する住宅、②補助対象者が居住し、配偶者、親または子どもが居住する住宅、③配偶者、親、または子どもが所有し、補助対象者が居住する住宅が補助対象である。トイレ改修自体は補助対象であるが、借家は補助対象になっていない。

<市長>

・空き家を貸してくれるかといった問題もあるが、家主の同意を得て改修を行い地域の定住者が増えれば、利永にとっていいことである。空き家対策は、非常に大きな問題であると思う。皆さんから何かご意見はないか。

### 【市民】

・住宅リフォーム助成事業の補助対象は、本人が住む住居についてのみということだが、これに変わる事業は今のところないのか。

<市長>

・今のところはない。そういう制度を創設してもらいたいとか、リフォームをしたら必ず住むといった確証が得られるのであれば、考えないといけない事業かもしれない。

### 【市民】

・以前のように、市営住宅を造るというのも難しい状況にあると思う。区営住宅を造った場合、市や県からの助成はないものか。助成金をもらうのではなく、借りる形での助成。

<建設部長>

・市営住宅については、新規の市営住宅は建設せず、古い住宅を建て替えるか、既存の住宅の住環境の整備を進める方針である。区営住宅については、詳しくはわからないが、民間が団地を建設し、市が補助をするという手法もあるが、家賃が高額になり負担も大きくなるといったケースがあるよ

うだ。区営の住宅に関しては勉強不足であるが、民間の場合は、そのようなマイナス面もある。

<市長>

・民間企業が造り、そこに住ませる制度はある。大きな〇〇ハウスというようなところは、若い人が住むかどうかの調査を行ってから造る。若い人向けの住宅を造って欲しいという要望は、以前もあった。しかし、利永で育った若い夫婦が利永には住まず、まち部に出て行くという現実もある。この現実をどうするかというのは、非常に難しいと思う。空き家を改修すれば住んでくれるかという、非常に難しいのではという気もする。地域でどのように取り組むかが、一番の知恵の出どころだろう。利永出身の若い人が、利永に住まずに出て行くというのは、教育の問題もあると思う。やはり、自分の子どもは、大きな小学校に通わせたいという考え方があるとするれば、利永に住宅を造っても、利永の出身者を含めて、ここに住むかどうかというのは大きな問題なのではないだろうか。そこさえクリアできれば、空き家を改修して住ませるような施策や、市営住宅とはいかなくとも、民間にお願いをして、利永に若者が定住でき、子どもがここで育つような働きかけもできると思う。

### 【市民】

・70歳代、80歳代の農業者がリタイアし、地区外からの農業者が増加してきている。利永出身者にこだわらず、その人たちも受け入れてもよいのでは。村の発展は人からであるので、一人でも住民が多くなればよいと思う。63軒の空き家の家主さんをお願いをして、何とか1軒でも提供していただけるように、私たちの方で働きかけなければいけないのではと思った。

<市長>

・そのような事例で、成功した地域もある。串良町の柳谷という集落にも50～60軒の空き家があった。そこで、平成12、13年頃、Uターン等の農業後継者を募集したところ、4年間で3～4人が移り住んできたが、また帰っていった。今度は、集落で借りた空き家の修理等を行い、東京の大学生など絵描きの卵を1年間住まわせて、地域に絵を飾ったりして村を盛り上げた。今度は、工作しなくなった畑を集落で借り上げ、広場を造ったり、サツマイモを植えて焼酎を造った。地域の人たちで何とかしようとして取り組んだのが、例のやねだん（柳谷）である。利永でも、肥沃な畑をどう活用していくか、人を呼ぶのが難しければ、自分たちで何とかできないだろうか考える時期でもあると思う。そうすると、「私たちも、利永に行って一緒にやろう」という人が出てくるのではと思っている。非常に大きな課題であるが、ここを乗り越えなければ、耕作放棄地が増えたり、地区外からの耕作者とのトラブルが起きたりするのではないかと思っている。いつか、こういう研修をしながら、利永の農地や空き家をどうするか考える機会があつていいのではないだろうか。これは、利永地区だけではなく、川尻、池田のように児童が減り、住民も減少してきている地域にとって共通の課題であろう。地域の皆さんの声を聞きながら行政も一緒になって、どのように対応すべきか考えなければならない。この問題は、地域の方々の意見を聞かずにできるものではないので、色々な意見をいただきたい。

### 【市民】

・尾下は景色もよく、やねだん（柳谷）のようなやり方をしたらどうかとも思うが、ちょっと遅いのではという思いもある。利永は、まだいいのではないだろうか。

<市長>

・決して、遅いということはないと思う。やねだん（柳谷）でも、地域から鹿屋等に移り住み、児童数もどんどん減少してきていた。それではいけないと、平成5年か6年頃、館長さん方が話をしたが、誰もそのときは立ち上がらなかった。しかし、自分たちで何とかしなければと皆で話し合い、土着菌を使った農業に取り組み、自分たちで作ったサツマイモで「やねだん」という焼酎を造り、そして広場も造った。地域がまとまった結果、平成13年頃には収益も出るようになり、部落会費等もいらなくなった上に、1年に1回、1万円ずつボーナスを配る公民館になった。そうすると、かねて家から出ないお年寄り等も芋作りやお祭などに出てくるようになった。もちろん、リーダー性のある豊重 哲郎という人が仕掛けたことであるが、地域がまとまればできないことはない。いつか、視察に行かれてはどうか。

**【市民】**

・2年前に行ったが、非常に人情味あふれる豊重 哲郎さんというリーダーがいたから成功したのではないだろうか。講演会も聞いたが、私たちには無理かなと思った。

<市長>

・最初のうちは、やろうかやるまいか非常に悩んだそうである。まずは、各家庭にきんかんを3本ずつ植えて、うち2本分のきんかんを製薬会社に売って、その利益で子どもたちにハワイ旅行をさせようという取組みを行った。なぜ、そのような取組みをしたかという、高校生クラブというのを作り、その人たちがまとまりミッドナイトウォーキング等の活動を頑張っているのに、応援できないような地域はどうしたものかと立ち上がった。しかもその頃、地元の中学校では全国ニュースで流れるような暴力事件が起こり、みんながまとまった。それが、やねだん（柳谷）の始まり。しかし、そういう問題が起きる前に、皆がまとまれば、できないことではないと思う。ぜひ、やねだん（柳谷）のようにとは言わないが、何か利永らしい地域づくりができないものだろうか。

**【市民】**

・利永でこのような取組みをすればという、市の案はないのか。

<市長>

・例えば、まとまった広い耕作放棄地があれば、青少年体験農場等を造り、都会の青少年等との交流を進めることで、利永の農地利用も進み、そこに人々が集まってくることにより、住民も集まってくると思う。活動をする場、人、物、金等も必要になるが、地域と一緒にやって行けば、地域コミュニティづくりやモデル事業のようなものでできるのではないだろうか。成功事例もたくさんあるので、研修に行ってみてはどうだろうか。利永に合った事業もあると思う。

**【市民】**

・振込み詐欺等、色々な問題があり、消費生活相談で対応してもらっているようである。法テラスについても説明してもらえれば、様々な相談ができるのではと思う。

<市長>

・色々な問題が発生しており、市としても相談体制や助言ができるような体制が必要であるが、法テラスの役割が見直されている。

<産業振興部長>

・市役所の商工水産課窓口には消費生活相談員が1人いて、契約の解約、クーリングオフ制度、訪問販売、催眠商法、土地の売買等に関する苦情や問い合わせなどに対応している。そこで解決できなかったり、被害が発生した場合は、警察につないだり、県の消費生活相談等を紹介している。指宿地域の旧まつや前に、弁護士が相談に応じる法テラスがあり、電話をかけて相談すれば、原則、有料で相談にのっている。まず、市役所の消費生活相談センターにご相談いただければ、より適切な窓口を紹介したり、相談にのって色々に対応をする。消費生活相談については、広報紙等で随時PR等をしている。

<市長>

・法テラスを含め、相談所に関する情報を口コミで広めてもらえれば、色々な問題に巻き込まれないのではと思う。色々身近な問題で困ったときには、市役所の職員に相談しても構わない。

<渡瀬副市長>

・高齢化社会になってくると、財産管理ができないという方々も出てくる。社会福祉協議会では、心配ごと相談や法律相談、交通事故相談についても無料で行っている。開催日等については、広報紙などで周知している。鹿児島県弁護士会は法テラスを設置し、司法書士事務所も同様に色々な形で悩みごと相談に応じる体制づくりをしているので、ご活用いただければと思う。

**【市民】**

・山川老人福祉センターはグラウンドゴルフ等もでき、老人の憩いの場としていい場所である。施設内には男湯と女湯があるが、最近、お湯の出が悪いようである。新しくボーリングをすると1,000万円ほどかかるようである。財政も非常に苦しいだろうが、健康にもいいお湯であり、どうにかならないものか。

<市長>

・高齢者等が集うことで元気になり、仲間の輪も広がる。それは、大切なことである。調査したいと思う。

<健康福祉部長>

・山川老人福祉センターは、昭和 56 年に建設した。風呂については、毎年スケール落としをしているが、温泉の出が非常に悪くなり、去年は配管をやり換えた。雨の量や地下水も温泉には大きく影響するようである。今後、管理をしている社会福祉協議会とも現況を調査していきたい

<市長>

・現状を見に行き、どうしたらいいか検討したい。

### 【市民】

・3～4年前、利永小学校が複式学級になるということで、以前のように上野も利永小学校に通学してもらおうようにできないか教育長に相談した。上野で総会も開いてもらったが、実現にはいたらなかった。教育長からアドバイスをもらい、また行政にも色々調べてもらいありがたかった。

・全部とは言わないが、市役所職員の給料は、旧山川町・旧開聞町の職員の給料よりも、旧指宿市の職員の方が高い。手紙や電話で意見しても、「はい、はい」だけで具体的な回答はない。

・九州新幹線や指宿のたまたま箱が通り、その相乗効果は50%増加しているが、さらに収益を増加させるような方法等を市は考えているのか。船から見る徳光の港から川尻の港の景色は、夢を見ているような素晴らしい光景である。何人かの漁船所有者に聞いたところ、市が本格的に取り組むのであれば協力するとの話をいただいた。観光客を川尻に入れ、そうめん流しで食事をする定期観光ルートができないものか提案したが回答はなかった。提案したことに対しては回答をいただきたい。

<市長>

・自主財源を生むための、ありがたい提案をいただいた。素晴らしい景観があれば、観光ルートとして開発しなければならない。「観光戦略ビジョン」でも、そういう意見をいただいております。今後提案していただければありがたい。電話や手紙での意見については、必ず回答をするようにする。これまで来ていなかったとすれば、申し訳なく思っている。

<総務部長>

・指宿、山川、開聞の職員間の給与格差については、条例改正等により何年かかけて是正をした。しかし、合併前の給与制度の取扱いが旧市町ごとに異なり、採用時の経験等も職員ごとに異なるため、完全に一緒とはいかないが、職員が一定の理解をしてくれるような形で調整をしている。

・行財政改革、補助金の見直し、そして受益者負担の適正化等を行いながら、少しずつでも財政の健全化というものも図られていると思う。ただ、国の財政状況も非常に厳しいため、過疎債や合併特例債といった指宿市にとって有利な制度を活用しながら、行財政を運用していこうと考えている。皆さんからのご意見についても、優先度、重要度について勘案しながら、色々な施策をさせていただきたい。

<産業振興部長>

・九州新幹線の全線開業等の効果を持続・発展させ、安定的に観光客を呼び込もうと、「指宿市観光戦略ビジョン」というのを平成 24 年度に策定した。指宿の観光と言えば、何と言っても砂むしであるが、今後は、砂むし自体に新たな付加価値を見出していくとともに、砂むしだけでない豊かな温泉や、美しい自然、おいしい食、ホスピタリティあふれる人などを魅力的に組み合わせた新たな観光プランの開発と充実を図り、指宿を訪れた人が、体も心も健康できれいになれるまちを目指していきたい。そのためにも、市民、観光関連事業者、観光協会、行政等がそれぞれの役割を担いながら協働して観光振興に取り組んでいくことができるような柔軟な体制作りを行い、観光を一つの大きな目玉として、指宿市の振興に繋がりたいと考えている。

<市長>

・さきほど提案いただいた観光ルートも、本当に貴重な意見であった。今後、市の財源が豊かになるよう、観光に視点をあてた事業の展開を考える必要があると思う。

・利永小学校における児童数の減少については、保護者、地域の方々の意見を最優先させなければならない。保護者はどう考えるか、地域はどう考えるか、そうなった場合に、地域が学校を含めて、

どう再編されるべきなのかという非常に微妙な問題まで入ってくる可能性がある。しかし、この問題は、先延ばしするわけにはいかないだろうと思う。今日のこの対話集会の中でいただいた意見も大切に、今後もどんどん意見を出していただきながら、新たな行政の施策に活かさなければならないという思いを強くした。